行動する魅力ある商工会

吉田商工会だより

第476号
（毎月5日発行）
発行　吉田商工会
会長　美内信孝

電話　0256（93）2609
FAX　0256（92）7661
URL　http://www.yoshida.or.jp
E-mail　tci@yoshida.or.jp

商工業者新年の集い開催

～永年勤続従業員表彰も併せて開催～

左上：永年勤続優良従業員表彰式　　左下：交流会アトラクションには杣木リサさん

1月16日、燕市吉田産業会館において吉田商工会「商工業者新年の集い」及び「永年勤続優良従業員表彰式」が開催されました。燕市長をはじめ、多数のご来賓や会員合わせて、150名を超える皆様からご出席いただき、盛大に開催されました。

永年勤続優良従業員表彰を受賞された方々受賞おめでとうございました。
（式典出席者のみ掲載）

▼50年表彰
吉田金属工業㈱　細谷　賢

▼45年表彰
吉田金属工業㈱　霜鳥　正敏

▼40年表彰
日本洋食器㈱　阿部　一人
中村ターンテック㈱　丸山　浩利
㈱ほしゆう　本田　久
㈱ほしゆう　宮路　祐介

▼35年表彰
㈱ほしゆう　加藤　眞一
アイチテクノメタルフカウミ㈱　和田　清宏
㈱山縣製作所　星野　彰
㈱山縣製作所　高井　孝一

▼30年表彰
㈱山縣製作所　大川　恒弘
㈱カドクラ　浜田　達夫
㈱吉田衛生　武田　正夫
新潟ダイヤモンド電子㈱　小杉由美子
㈱ほしゆう　秋山　明
旭金属工業㈱　青木　菜穂
旭金属工業㈱　赤塚美由紀

座談会

去る1月18日（水）、吉田産業会館にて、新春懇談会を開催いたしました。

出席者：美内商工会長、太田亜子さん（㈱杉安製作所）、
木龍康一さん（越後味噌醸造㈱）、後藤英樹さん（㈲ゴトウ熔接）、
藤田広貴さん（㈱藤田組）

司　会：商工会だより編集委員・小林理恵子

美内商工会長

美内：この座談会も、もう4回目になります。記事を読んで、ヒントを得たり、希望をもらったり、安心したり、そういう内容になればと思います。皆さん、遠慮しないで、お話してください。

小林：今回は、少し先の未来を見ながら、新たな取り組みをされている皆様に集まっていただきました。

まずは、自己紹介から。せっかくなので、ネガティブな内容は無し。前向きな話にしましょう。

美内：私は5年、会長をしていますけど、だんだんと色々な課題が見えてきて、荷が重いな～と感じている昨今です。ただ、誰かがやっていかないと、この地域がどうなっていくのかなぁという心配もあるので、頑張ってやっていきたいと思っています。

先日、税務署の署長さんとお話したら、昨年の税収、この地域は上向いているそうです。頑張っているところは、成績を上げているということですよね。

うちのことでいうと、うちの倅が店に入って丁度10年になりますが、10年で、本当に変わりました。例えば、チラシ。実際に来てくださるお客様の3分の1は実はうちがチラシを配布しているエリアの外から来ている。お客様の情報の取り方が、変化しているということを実感しています。ラジオ番組、SNSを使った広告、ホームページ等様々な形で情報発信をしていますが、そこからわかるのは、お客様は欲しいものがあればどこでも行っちゃうということ。ただ、当然競争相手もいるし、どういう質の情報をどう発信していくのか、来店の際に、どう対応するのかということが重要になってきます。現在まで、いい流れできているので、その流れをきらずにやっていきたいなと思っています。

小林：会長のところは、外から見ると、非常にスムーズに事業承継されていると感じます。

美内：事業承継は、本当に皆さん悩んでいるところですが、事業承継するほうからみると、覚悟を決めることだね。任せたら言わない、決めたんだから言わない、という。

小林：早速、今日の金言が早速出ましたね。

では、青年部代表ということで、まさに事業承継これからという所だと思いますが、㈱藤田組の藤田さんお願いします。

後藤英樹さん

藤田：今、吉田商工会青年部の副部長をやらせてもらっています。青年部は、数年前からとりにくのレモンあえの活動をやり始めて、あちこちでPRしています。この活動で、ふるさとを離れた人が、地元に帰りたいなとか、俺の地元はこんなに元気なんだと思ってもらえるようになればなと思っています。来年度は、単独での活動に加えて、西蒲という地域としても、一緒に盛り上げていければと思っています。もうひとつ、自社の経営に活かせる内容の活動も今後は力を入れていきたいです。

会社のことをお話すると、先ほど承継というお話が出ましたけど、いま本当に人がいない状況で、経営の承継もそうですが、技術や技能の承継についても、考えているところです。今まで求人活動というものをしっかりしてこなかったんですが、自社に新しい風を入れるという意味でも、求人活動に力を入れていきたいと考えています。

小林：そうですね。建設業界の人手不足。その辺りは考えていかなければいけない課題ですよね。人手不足という課題に対し、海外に目を向けたのが後藤さん。

後藤：私が社長になって、今年で12年。この間にあった出来事を振り返ってみると、激動の時間でした。県央地区も多くの災害に見舞われたし、世界経済も日本経済も、大きく変化してきました。特にリーマンショックのときに、中国や東南アジア等に目を向ける機会があって、実際にタイに進出している企業を訪問しました。地元燕では、機械1台に対して一人ついて作業をしているなか、その企業では、ロボットが機械と機械の間の品物を運んで大量に製品ができている。強い衝撃を受けました。その後、海外の展示会に出展したりもした中で、海外に進出するのは無理だという結論に、私はなりました。現地に行き、情報を得ることで、自分の中で結論が出せたので、良かったと思っています。先ほど、人材不足の話が出ましたけど、うちも同じ状況の中、ベトナムの日本人学校の方と知り合いになって、ベトナムの実習生を雇用しました。3年間という期限がありますけど、継続的に派遣してもらい、真面目に働いてくれています。

小林：移動する距離と、気付きの多さは比例すると聞きます。実際に現地に行かれたりして、沢山気づきを得られたんだと思います。

続いて、木龍さん。

木龍康一さん

木龍：うちは、事業承継の形が特殊で、私は元々越後味噌醸造の人間ではないんです。生まれも育ちも新潟市で、一昨年の10月に入社しました。味噌・醤油の蔵はどこも厳しい現状のなか、うちは246年の歴史があり、それをなくす訳にはいかないということで、今5社のグループ会社の1社として越後味噌醸造があります。私は、元々は、そのグループ会社の一つにいまして、越後味噌醸造にくることになりました。昨年の5月に私が社長に就任して、従業員は元々のメンバーをそのま

吉田商工会新春

ま引き継ぐ形で営業しています。うちは県央地区では老舗の味噌蔵だと言えますが、地域の方からは、「味噌を作っている会社」というイメージでしかない。

小林：私たちは当たり前すぎて気づかなかったことですね。

木龍：もう一度、地元の方に私たちの会社をお知らせしなければと思いました。食育の授業を小学校でさせてもらったり、地元の農家さんの協力を得て、地元産の材料にこだわった商品作りをしています。それを、まずは地域の方々に知っていただこうと、チラシ、SNS、メディア等で発信しています。面白いことに、地域に特化して取り組めば取り組むほど、その情報は外側に広がります。来年度は、さらに、地元の食をテーマに連携を組める方を探して、工業の町であり、食の町であるというところをアピールしていきたいです。

小林：ありがとうございます。まさに、食に関する道具を生産しつつ、違うことにも取り組んでいる太田さん。

太田：うちは私で4代目。上に兄もいるし、まったく継ぐ気はなかったんですけど、2000年に会社に入りました。会社のこともそうですし、私は燕のアーケードがあったところの出身で、燕のまちなかを元気にしたいという想いもあり、昨年吉田まちゼミに参加しました。うちはお菓子づくりの道具を作っていますが、子供さんも楽しんでくれそうで、まずお菓子作りに興味をもってもらえるような講座を企画しました。そしたら、その情報を見た美容室さんから依頼があったり、思ってもみなかったところから反応がありました。

太田亜子さん

会社のことも色々考えてはいますが、現社長である父の考えもあるし、今はまだ、構想を練っている段階です。

美内：まちゼミは、お客様からファンになっていただくというねらいと、その前に、まずは自分の店を見直すというテーマがあります。先ほど木龍さんもおっしゃったけど、外からの視点って大事で、外からこそ見えるお店の魅力をメンバー同士で引きだし合って、地域の人から理解していただくというところが、まちゼミのテーマでもあります。

小林：私もまちゼミに参加させてもらっていますが、2回とも参加して、2回目は本当に遊びにきてもらう感じの講座にしたところ、沢山の方に来ていただきました。どんな会社かというのを少しわかっていただけたかなと感じています。

このあとは、皆さんが考えるこの地域の活性化についてお話して頂きたいと思います。

藤田：さっき木龍さんのお話を伺ってて、「よそ者の視点」という話で、レモンあえもそうだったんです。たまたま東京出身の青年部員がいて、レモンあえがこの地域にしかないものだという話になって、そこから活動するようになりました。地元の人には当たり前のことが、外から見たときに新鮮に映ることがあるんですよね。

美内：活性化のキーワードって、昔から「よそ者・若者・バカ者」っていうよね。だから、視点が違う眼って大事なんだよね。

小林：太田さんも、少し外側から地域を見たときに、どう感じますか？

太田：燕・吉田含めて〝ああしたい〟〝こうしたい〟という想いはあるけど、いざ動くとなると、なかなか難しい。皆さんいろいろな事情があって動かないのかなとも思います。ただ、そういうことは、ねかせておいてもいいことはないんじゃないかとも思います。

後藤：確かに、責任を持つとか、覚悟を決めるというところに、吉田地域だけではないですが、弱いところがありますよね。

木龍：大きいことを最初からしようとしても、なかなかうまくいかない。まずは、発信して自分たちのことを理解してもう。絶対どの企業さんも、いい技術、いい歴史があるから、それぞれが発信することで、地域全体の魅力につながっていくと思います。

小林：情報発信って大事ですよね。一度、情報発信の仕方の勉強会をしたいくらい。最後に、美内会長から総括をお願いします。

美内：今日は、現実的であり、ヒントに溢れた話ができたかなと思います。それぞれ課題がある中で、商工会としても、今まで以上に会員の皆さんに寄り添って経営のお手伝いができればと思っています。

ありがとうございました。

藤田広貴さん

小林編集委員

編集委員が行く！ 職 吉田の場訪問記

今回は「フレッシュグリーン合同会社」の竹内さんを、お隣に店を構える近藤編集委員が訪問しました。

近藤委員： 今日はよろしくお願いします。昨年からお店をはじめられたんですよね？まずは、お店の紹介をお願いします。

竹内さん： 昨年の7月にこの店をオープンしました。新潟県内産の野菜を中心に旬の野菜を取り揃えています。野菜が少なくなっている今の季節は、何と言っても新潟産「いもジェンヌ」を使っている焼き芋がオススメです。

近藤委員： 私も、好きですよ～。周りの方からもおいしいっていう声を聞きます！

竹内さん： ありがとうございます。来シーズンからは、自家製のサツマイモを使った焼き芋もデビューする予定です。

近藤委員： 生産もされているんですよね。それは楽しみですね。そもそも、お店を開こうと決めたとき、なぜ吉田を選んだんですか？

竹内さん： 人口が減っている中で、吉田地区は人口が増えている。子育てをしている世帯も多い中で、安心して食べられるものを求める人は必ずいると思い、ここを選びました。開店して半年程度ですが、お陰様で定期的に来て下さるお客様もいらっしゃいます。

近藤委員： それはうれしいですよね。やはり、近くで作られているものや、作っている人がわかるものを求めるお客さんはいますよね。

竹内さん： そうですね。まだ試行錯誤の状態で、戸惑うことも多いですが、安心して食べていただけるものを、より多くの方に届けたいと思っています。そのために、消費者の方だけでなく、お店への販売や、ネットを通じた販売など、今後の展開を模索しているところです。

近藤委員： 今後も楽しみですね。今日はありがとうございました。

■企業データ
フレッシュグリーン合同会社
燕市吉田西太田773-6
TEL 78-7912

個人事業主の皆様
～確定申告と納税は正しくお早めに～

平成28年分の所得税等・贈与税の確定申告と納税の期限は3月15日(水)、消費税および地方消費税の確定申告と納税の期限は3月31日(金)です。申告と納税は期限内にお済ませください。また、平成28年分以降の確定申告書には、マイナンバーの記載が必要になります。

ご不明な点は、商工会までお問合せください。

無料法律相談のご案内

吉田商工会で弁護士による無料法律相談が開催されます。相談は無料、おひとり約30分程度の相談時間です。ご希望の方は事前に商工会（TEL 93-2609）まで予約をお願いします。

日　時　3月1日（水）10：00～12：00
会　場　吉田産業会館応接室

商工会関係今後の行事予定表

2月8日(水) 米納津支部総会・新年会
14日(火) 商業部会視察研修旅行(東京方面) ～ 15日、女性部新年会
17日(金) 青年部新年会
23日(金) 粟生津支部新年会

日本公庫金利情報

★小規模事業者経営改善資金（マル経）
1.16%（前月比±0）
★普通貸付
1.16～2.30%
※1月16日現在

日本公庫相談会

日時　2月21日（火）
午前10時～正午
場所　吉田商工会
※普通貸付の融資相談会です。必要書類がありますので、前日までに事前予約をお願いします。

無料特許相談会

日時　2月23日（木）
午後1時30分～2時30分
場所　吉田商工会
相談員　黒田勇治弁理士
※実用新案・意匠・商標の相談も受け付けます。前日までに必ず事前予約をお願いします。

労働・年金相談会

日時　2月23日（木）
午前10時～正午
場所　吉田産業会館
相談員　社会保険労務士会三条支部
事前に予約申込が必要です。